

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572000422		
法人名	医療法人山仁会 山口整形外科		
事業所名	グループホーム メゾン・なでしこ		
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋3225番地 (電話) 0983-23-8023		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年6月18日	評価確定日	平成20年7月31日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道10号線沿いの利便性の良い場所に位置し、施設母体の病院、また、関連施設が隣接している。ホームの周りはまだ田園風景が広がるのどかな所である。「ゆっくり、楽しく、一緒に」を理念に、運営者、管理者、職員が一体となりサービス向上に取り組んでいる。また、運営者、管理者は人材育成に力を入れており、研修等には積極的に職員を参加させている。母体が病院という条件の下、利用者が安心して暮らしていける環境が整っている。職員の表情も明るくゆったりとしたケアができています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 日中は職員が見守りの体制を話し合い、鍵をかけないケアに組んでいる。浴槽については改善に向けて前向きに捉えている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 全員で自己評価に取り組み、評価の意義については十分理解し、サービスの向上に意欲的に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議は定期的開催し、地区住民、家族、町の担当者を交えホーム内の現状報告や外部評価の結果、ホームの行事の計画等活発な意見交換が行われ、ホームの運営に反映している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族の来訪時に利用者の生活の様子や健康状態をきめ細かに伝えている。また、運営推進会議で出された意見や苦情等が反映できる体制にある。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 関連施設と一緒に開かれる文化祭や敬老会に地域住民を招き交流を深めている。また、ボランティアの受け入れ、近隣住民の訪問など地域住民との交流を積極的に行おうとしている。

## 【情報提供票より】（平成20年5月22日事業所記入）

### （1）組織概要

開設年月日	昭和・平成12年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤5人, 非常勤4人,	常勤換算7.1人

### （2）建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～1階部分

### （3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30,000 円	その他の経費（月額）	実費 円	
敷金	有（円）	無		
保証金の有無（入居一時金含む）	有（円）	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### （4）利用者の概要（平成20年5月22日現在）

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1	要介護2	3		
要介護3	3	要介護4	1		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 85.8歳	最低	72歳	最高	93歳

### （5）協力医療機関

協力医療機関名	山口整形外科、団井歯科
---------	-------------

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、楽しく、一緒に」を理念に家庭的な雰囲気の中で、安心して、地域の中でその人らしく暮らし続けていけるよう、職員全員でサービスに向上に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員ともども毎日の生活の中で理念について理解を深め実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム、また、隣接する関連施設で行われる文化祭、展示会、老人会など地域住民との交流を深めている。	○	地域で行われる行事等の情報を取り入れ、積極的に参加することを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の目的や意義について運営者、管理者、職員で話し合い積極的に改善に向け努力している。		

宮崎県高鍋町 グループホームメゾン・なでしこ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的で開催し、利用者の状況、また、ホームの行事予定、外部評価への取り組み等、積極的な意見交換がされている。職員は出された意見を受け止めサービス向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に町の担当者にも出席してもらい、率直な意見交換の場となっている。また、管理者は役場に出向きホームの状況の報告やホーム便り等を届けている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の近況報告や健康状態の報告がされている。また、遠方の家族には電話やお便りを出している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議で出された意見や要望に対して職員全員で検討し運営に反映している。また、玄関にも意見箱が設置してある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	主に法人内での異動が行われている。利用者との信頼を築くために異動が決まった時点から折に触れホームを訪れ、利用者に不安を与えないように体制をとっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者は人材育成に積極的であり、内外の研修に参加させている。職員は自発的に研修への参加の希望をしサービスの向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修や町内の事業所との交流もあり、情報や意見交換など横の連携を取りながらサービスの向上を目指している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人、家族を交えホームの見学に来てもらい雰囲気や環境になじんでもらえるように工夫している。また、職員は自宅へ出向き不安を取り除くなどの支援をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に安心と安らぎのある毎日を過ごしてもらうために、職員は共感を大事にし、また、人生の先輩として尊敬の気持ちを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や表情、また、日々のかかわりの中からの把握に努めている。また、家族からの情報も得るようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を十分に取り入れ、アセスメントを含め、職員全員で意見を交換し利用者本位の介護計画が作られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとの見直しに加え、短期、長期目標の評価を行い、また、状況の変化に応じて随時介護計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の病院、介護施設の機能を十分に生かし、連携を取りながら利用者や家族の要望に対応できるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に掛かりつけ医の受診を行っている。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な場合は職員が通院支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、母体である病院の医師、職員との話し合いの下、また、掛かりつけ医の支援を仰ぎ大まかな指針はできている。	○	利用者の終末期に向けて、家族間の十分な話し合いのもとにその意向を書面にて確認し、状況の変化が生じた場合、家族の思いを再確認し、適切に支援ができる体制を取ってほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りや権利を守るために、言葉遣いや排泄援助等さりげない支援ができている。また、個々の記録等の取り扱いには特に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、利用者一人ひとりのその日の状態や思いに則しながら、納得のいく暮らしができるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、後片づけなど一緒にやっている。会話をしながら楽しく食事ができる雰囲気作りをしている。	○	現在、朝食のみをホームで作り、昼食、夕食は併設の施設より運ばれてくる。職員全員で話し合いホーム内で食事が作れるよう期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日はあるが、その中で利用者が希望する時間に入浴できる体制にある。	○	浴槽が深く、また、タイル張りで角があり、高齢の利用者には危険を感じる。職員の十分な入浴支援と早急な補修が望まれる。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で利用者の力が発揮でき、また、趣味の花作りや野菜作りなど、経験や知恵を生かして楽しんでもらえる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の健康状態や気分に合わせて近隣の散歩やドライブに出かけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りが十分な日中は鍵は掛けていない。利用者が外に出そうな様子を察知したときは一緒についていく等、自由な暮らしができるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、また、併設の施設と一緒に消防署、近隣の住民の協力を得て定期的に災害訓練を行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については個々に把握できている。職員は情報を共有し、適切に支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体に柔らかな光が降りそそぎ、居心地のよい空間が広がっている。皆が集う居間を兼ねる食堂は大きな窓からは広い庭の木々の緑が眺められ季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や自宅で使用していた小物類、また、趣味で習っていた琴など持ち込んでいる利用者もいるが、全体的に使い慣れたなじみの物の持ち込みが少ない。	○	利用者が安心して居心地よく生活するために、家族と相談しながら使い慣れたなじみの物を増やす工夫を期待したい。

※  は、重点項目。